

特集：大形建設機械と施工

目次

□巻頭言 施工の近代化、大形化に伴う課題……島津 武ノ1  
 大形建設機械の現状と将来 ……………中野 俊次ノ3  
 作業船の大形化と問題点 ……………西村 俊之ノ10  
 大形建設機械の運営管理の問題点……………岡部 卓ノ14  
 沼原ダムの施工……………川嶋 登紀衛ノ18  
 神戸高倉山の土取工事の実績……………岡田 俊治ノ24  
 松本 守英ノ24  
 大口径掘削機(2.5 mφ)の開発……………田中 康之ノ29

グラビヤ—世界の大型工事を見る

□随想 土工機械の思い出……………養輪 健二郎ノ34  
 ドイツ道路建設機械の進歩の現況……………調査部会ノ36  
 文献調査委員会

□部会研究報告

ブルドーザの騒音除害方法の研究……………ディーゼル機械技術部会ノ43  
 ブルドーザ技術委員会  
 ダンプトラックの実態調査報告……………ダンプトラック技術部会ノ49  
 機械技術部会  
 建設機械における流体伝動装置の最近の傾向……………トルクコンバータ技術部会ノ56  
 機械技術部会  
 建設機械整備標準工数および標準料金の試算……………整備技術部会ノ59  
 料金調査委員会

□工場めぐり

酒井重工業東京工場……………深野 静男ノ78  
 髙野 漢  
 新潟鉄工所大山工場……………槻小野田 明樹ノ81  
 登

□建設機械化研究所抄報

試験研究報告 (No. 77)……………建設機械化研究所ノ84

□文献調査

1台の機械で路盤処理からアスファルト舗装まで……………調査部会ノ89  
 文献調査委員会  
 900,000 m<sup>3</sup>の岩石工……………調査部会ノ90  
 文献調査委員会

けん引試験用データ処理装置……………建設機械化研究所ノ92  
 ニュース……………(編集部)ノ93  
 行事一覧……………ノ97  
 編集後記……………(塚原・大塚)ノ98

◀ 表紙写真説明 ▶

沼原ダム建設工事現場で稼働中の  
国産大形ダンプトラック

沼原ダムは電源開発が標高約 1,300 m の沼原湿原地帯に築造中のフィルタイプダムで、鹿島建設が施工している。

この工事には多数の大形建設機械が投入されているが、その主力の大半は米国製輸入機械である。これら輸入機械群に混じって 32 t 積みの国産大形ダンプトラック 3 台が稼働している。三菱自動車工業、日立製作所、小松製作所製の各 1 台で、これら国産機はいずれも昭和 44 年から 45 年にかけて相次いで開発されたものである。

写真は本年 5 月の稼働状況で、向かって右から三菱、日立、小松の各ダンプトラックである。

主要仕様

	三菱	日立	小松
最大積載量	32,000 kg	32,000 kg	32,000 kg
総重量	58,000 kg	58,255 kg	58,510 kg
機関最大出力	430 PS/ 2,200 rpm	434 PS/ 2,100 rpm	450 PS/ 2,100 rpm
最小回転半径	8.2 m	7.2 m	7.0 m